

平成二十八年年度 第一回 入学試験問題

国語

【受験上の注意事項】

- 一、試験時間は五十分で、百点満点です。
- 二、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
- 三、解答用紙はこの冊子の間にはさんであります。
- 四、受験番号・氏名を解答用紙の決められた欄にかならず記入しなさい。
- 五、問題は五ページ・四題あります。問題がぬけていたり、印刷がはつきりしない場合は申し出なさい。
- 六、各問題とも解答は解答用紙の決められたところに記入しなさい。
- 七、何か用事ができた時はだまって手をあげなさい。ただし、問題の内容についての質問はできません。
- 八、解答用紙だけを提出し、問題用紙は持ち帰ってかまいません。

藤嶺学園藤沢中学校

一 次の①～⑧の——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 安易な問題から取りかかる。
- ② あの一言が明暗を分けた。
- ③ 夕日に映える山。
- ④ 険悪なムードになる。
- ⑤ 不注意にキインする事故。
- ⑥ 通行をユルす。
- ⑦ 彼はカイカツにしゃべる。
- ⑧ ケツアツを測る。

二 次の1・2のそれぞれの問いに答えなさい。

- 1 四つの漢字の中から三つを使い、三字熟語を完成させなさい。
① 場・体・念・正 ② 理・尽・不・科 ③ 住・居・食・衣 ④ 平・地・天・線
- 2 次の慣用語の□には体の一部を表す言葉が入ります。入るのに適当な言葉を漢字で答えなさい。
① □にたこができるくらい同じ話を聞かされる。
② □にどろをぬるような行為はしないように。
③ □をくくって試験に臨む。
④ □の上のこぶのような存在だ。

三 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

(特に指示がない場合、句読点や記号は一字に数えます)

出発したのは、ちようど予定どおりの午前三時。①お兄ちゃんがまた、一輪車を②ぼくの背中にくくりつけてくれた。カッパを着こんで、さあ、出発だ。ホテルの人が三人も見送りに出てきてくれた。「③すごいことやるんだねえ、君は。暗いから気をつけてな。この雨はもうすぐやむよ。きつと④いい朝日が見られるぞ。」

そんな気のいいおじさんたちとお兄ちゃんに見送られて、ぼくと高木さんはホテルをあとにした。正男と一樹はまだ夢の中だ。

山中湖の周りにはあい変わらず、ひっそりとした明かりがポツリポツリとともっている。ヘッドランプの明かりの中には、たてに走る雨つぶと、⑤白い息がうかび上がる。

「寒いなあ、平気かい、健太君は。」

「はい、平気です。熱もすっかり下がったし、バッチリです！」

本当にぼくは元気だった。体じゅうが痛いのは変わらなけれど、今はなんだかこの富士山に登る本当の目的がわかったような気がしていたからだ。確かに⑥初めはラジコンヘリが目的だった。ずつとそうだった。でも、今はちがう。どうしてこうなったのかはわからないけど、今はただ登りたい、登って一輪車で一周したい、リーダードームも見てみたい、そんな気持ちでいっぱいだった。

「健太君。(7)、心配しているだろうな。」

ぼくは、えっと首をかしげた。どうしていきなりこんなことを言いだすんだろう、高木さんは。

「べつに……、心配してないんじゃないかな。高木さんがいっしょなら安心だって言っていましたか。」

いいや、ちがうんだ、と、ランプの明かりの中に高木さんの笑った顔がちらりと見えた。

「お母さんは反対だったんだ。君や君のお父さんがいくら説得しても、もちろんお母さんがぼくと会ったあともね。でも、そのあと最後にお母さんを説得したのは、浩君だったんだ。『あいつがやると本気になってがんばりたいと思うものが見つかった。今やらせてやらなかったら、あいつはいつまでも今のまま変わらない』ってね。たいしたもんだよ、浩君は。とても中学二年生の子どもとは思えない。だから、この登山で健太君のがんばる姿をしっかりと見ておきたかったんだらうね。こつそりトレーニングもしていたらしいよ。」

そうだったのか……。それでお兄ちゃん、あんなに大切にしていたラジコンヘリをくれるなんて言ったのか。ぼくに自信をつけさせるために……。

「でも、健太君。その浩君の気持ちにこたえた君も実にたいしたもんだ。小学校四年生で本当にここまでやっちゃうとはねえ。すごい兄弟だよ、君たちは。」

ぼくは何も返事をしなかった。お兄ちゃんの本当の気持ちがわかって、何も言えなくなったんだ。(お兄ちゃん、ぼく、絶対に登るよ!)

一時間ぐらい登ったんだらうか、また肩と背中(せなか)の痛みがはげしくなってきた。そんなぼくの様子を見てか、高木さんがタイミングよく声をかけてくれた。

「がんばれ、もうすぐだ。このペースなら、じゅうぶんご来光(らいこう)には間に合う。よしつ、雨が上がった。カップをぬこう。」

⑧ 雨がやんだことにも気づかないほど、ぼくはもくもくと歩きつづけていた。いつの間にか、九合目の山小屋も通り過ぎた。空を見ると、うつすら見える雲が切れて、いくつもの星が顔をのぞかせていた。

「やあ、天気も問題なし。健太君の根性(こんじょう)もベリーグッド。さあ、一気(いっき)に行こう!」

ほんの五分ぐらいの短い休憩(きゅうけい)のあと、ぼくたちは先を急いだ。後ろをふり返ると、いくつかの明かりがゆれている。山小屋から出発したらしい登山者(とせんしゃ)が少しずつ増えてきたのだ。

ジグザグの登山道(とせんどう)を、足をすべらせながら登る。細かい溶岩(ようがん)というのは、本当に登りにくい。足を四十センチ前に出しても、半分の二十センチぐらいはズルズル下がってしまう感じだ。

手をつないで、はげまし合いながらゆつくりと登っていくおじいさんとおばあさんを追いこした。

こんなお年寄り(としより)も登っていく富士山。⑨ みんなそれぞれの目的があつて、がんばるんだらうな。ぼくの後ろや前でゆらゆらゆれているいくつものヘッドランプの明かり。あの数だけ目的があつて、夢があつて……。何かをめざして、自分のやり方(やりかた)でがんばるって、なんだがすごいな。うーん、うまく言えないけど、胸(むね)がわくわくして、生きることが楽しいって気持ち……。かな? こんなこと言くと、また、お兄ちゃんに生意気(せいき)って言われるかな。肩のベルトにつけたキーホルダーが、また、カチャツと音を立てた。チー坊(ちーぼう)、ぼくはもうすぐ頂(ちようじやう)上に立つよ。一輪車(いちりんしゃ)で走ってくるよ。ぼくのこの

計画(けいけい)を聞いたとき、チー坊(ちーぼう)は最初(さいしょ)から大賛成(だいさんせい)だったってお母さんが言っていた。ほかのみんなは初め(はじめて)はばかにしたり、信じてくれなかったりしたのに、チー坊(ちーぼう)だけはちがついていたね。帰(かえ)ったら、チー坊(ちーぼう)はうんとおみやげ話(はなし)をしてあげよう。いつもならチー坊(ちーぼう)の前(まえ)だとうまく話(はなし)せないんだけど、今度はきつとだいじようぶ。さて、もうひとがんばりだ。

(『ぼくの一輪車(いちりんしゃ)は雲の上(うの上)』山口理)

問一 — 部①「お兄ちゃん」 — 部②「ぼく」とありますが、それぞれの名前と学年を本文中から抜き出して答えなさい。

問二 — 部③「すごいこと」とありますが、どんなことをやろうとしているのですか。それを説明した次の文の空欄(くうらん)にあてはまる言葉を本文中から抜き出して答えなさい。

【三字】の【二字】を【三字】で周ること。

問三 — 部④「いい朝日」とありますが、これを別の言葉で言い換えた部分を本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問四 — 部⑤「白い息」とありますが、これはどのようなことをあらわしていますか。それを説明した次の文の空欄(くうらん)にあてはまる言葉を本文中から二字で抜き出して答えなさい。

外が【二字】ということ。

問五 — 部⑥「初めはラジコンヘリが目的だった」とありますが、なぜ兄は弟にラジコンヘリをあげてまで弟に富士山に登(のぼ)せたかったのですか。本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問六 (7) — にあてはまる人物を本文中から抜き出して答えなさい。

問七 — 部⑧「雨がやんだことにも気づかない」とありますが、それはなぜですか。次の中から一つを選び、記号で答えなさい。

ア 登ることに集中していたので、周りの状況(じやうきやう)が気にならなかったから。

イ 登山(とせん)の辛(つら)さがピークに達(た)していたので、足元(あしもと)以外見(み)えなかったから。

ウ 変(へ)わりやすい山の天(てん)気をいちいち気にしていられなかったから。

エ 降(ふ)っていた雨(あめ)は霧雨(きりずみ)なので、カッパ越(こ)しには何も感じ(かんじ)なかったから。

問八 — 部⑨「みんなそれぞれの目的があつて、がんばるんだらうな」とありますが、「ぼく」は「目的」のためにがんばる人(ひと)たちを見て、どういう思い(おもひ)を持ちましたか。「〜」という思いにつながるように、本文中から十九字で抜き出して答えなさい。

④ 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

(特に指示がない場合、句読点や記号は一字に数えます)

水平線の彼方(かなた)はどうなっているのか誰にもわからなかった時代、コロンブスは西へ向かってパロスの港を出港したが、この航海は単なる冒険家としての行動ではなかった。この航海はアジアに到達して、スパイス類や黄金を持ち帰ることが目的であり、コロンブスは壮大な事業として計画していたのである。彼はこの事業を「インディアスの事業」と名づけており、航海によってもたらされる利益の配分や、彼と家族の身分の保障などについて、国王との間で契約書を交わした上での航海であり、また、国王の支援を受けての航海でもあった。

合計四回にわたる航海は、予想もしていなかった(①)の存在によって阻まれ、アジアに行き着くことができず、②事業の成果はあがらなかった。一五〇六年五月二〇日、コロンブスは、自分が成し遂げた行為の真の価値を知ることなく、スペインのバリャドリッドの町で失意のうちに五五歳の生涯を終えている。コロンブスの最大の業績は、アメリカ航路を開拓したことであり、新旧大陸間の交流の道を拓いたことである。彼の死後、永い時間を経てから、大陸間の交流によって、徐々にではあったが社会にさまざまな変化が生まれ、現代の社会が形成されている。③コロンブスの業績を文化史という視点で探ったのが本書である。

一四九二年一〇月一二日、サンタマリア号に乗り込んだコロンブスによって率いられた三隻の艦隊が、カリブ海に浮かぶワットリング島(現在のサン・サルバドル島)に到着して以降、コロンブスは「新大陸」の発見者としての名声を博してきた。アメリカ大陸の先住民が新大陸に最初に到達した人びとであることは別にして、コロンブスより四〇〇年以上も早い時期に新大陸に到達して、数十人が数年間を過ごした越冬基地の遺跡が見つかった。

その当時、キリスト教徒からは「野蛮で残忍な異教徒の群れ」として恐れられており、現在ではヴァイキングの名で知られている古代スカンジナビア人が、一一世紀にニューファンドランド島に到着して越冬基地を築いていたのである。

最近では「コロンブスは新大陸の発見者である」とする表現は影をひそめ、「コロンブスは新大陸への最初の到達者である」という表現が主流になっているが、この表現もまた根拠に乏しい。現在までに判明している事実に基づくなら、新大陸への最初の到達者としての名声はコロンブスのものではなく、(④)の頭上にこそ輝くべきものである。にもかからわず、⑤コロンブスの名声はいさ

さかも傷つくことなく、さまざまな伝記に取り上げられて今も輝き続けている。なぜだろうか？

古代スカンジナビア人の新大陸への渡航と滞在は、ただ新大陸に足跡を残したというだけに終わっており、その後の歴史にはほんのわずかさえも影響を与えてはいない。

コロンブスの名前とその航海が歴史の上で輝いているのは、この航海が契機となつて、ヨーロッパ大陸と新大陸の間で人の往来が盛んになり、その結果として新大陸からは多くの植物がさまざまな形でヨーロッパに渡り、それら植物がもたらした恵みが基礎となつて、新たな文明が築かれてきたからではないだろうか。新大陸への到達者としては二番手であつたにせよ、コロンブスの名前が歴史

の中で重要な意味を持っているのは、四回にわたる彼の航海が、「新しい文明の形成」への幕開けになったという一点につきるであろう。

新大陸の先住民が飼育していた⑥□□の種類は少なく、わずかに食肉用として七面鳥、アヒル、食用犬が知られており、アンデスの高地では肉や毛皮を目的に、ともにラクダ科に属するリャマやアルパカが飼育されていたくらいであつて、ヨーロッパにおけるウシ、ウマ、ヒツジ、ブタなどのような食肉用の大型の家畜は飼育されていなかった。新旧両大陸間の交流が始まって以降、ヨーロッパでは新たに※家禽としての七面鳥が飼育されるようになったくらいで、新大陸原産の□□がヨーロッパ文明に与えた影響は※微々たるものでしかない。

一方、ヨーロッパ文明に大きな影響を与えて、現代の社会を生み出す上で、大きく関わっているのが新大陸原産の植物たちである。新大陸から伝来した植物たちがなかったら、現代の文明も食文化もまったく違う形になっていたであろうことは間違いない。

(『文明を変えた植物たち』酒井伸雄)

※契機：きっかけ。

家禽：飼育されている鳥。

微々たるもの：わずかなもの。

問一 (①)にあてはまる言葉を本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問二 部②「事業の成果」とありますが、その内容を具体的に説明している部分を本文中から二十四字で抜き出して答えなさい。

問三 部③「コロンブスの業績」とありますが、その内容を説明している部分を本文中から十六字で抜き出して答えなさい。

問四 (④)にあてはまる言葉を本文中から抜き出して答えなさい。

問五 部⑤「コロンブスの名声はいささかも傷つくことなく、さまざまな伝記に取り上げられて今も輝き続けている」とありますが、それはなぜですか。それを説明した次の空欄にあてはまる言葉をそれぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

コロンブスの航海により新大陸の「二字」がヨーロッパに渡り、それが基になり「五字」が創られたから。

問六 部⑥⑦の□□には同じ言葉が入ります。入るのに適当な言葉を自分で考えて(本文にはない言葉で)答えなさい。

問七 本文中から次の一文がぬけています。入れるのに適当な部分の直前の五字を答えなさい。

ましてや、越冬基地を残した古代スカンジナビア人のことなど、学校教育の場や伝記に取り上げられることもなく、ほとんどの人はその事実をまったく知らないでいる。

第一回入試 国語 解答用紙

受験番号

氏 名

得 点

一

①
②
③
える
④

⑤
⑥
す
⑦
⑧

二

①
②
③
④

①
②
③
④

三

①	②
名前	名前
学年	学年

問二
の
を
で周る。

問三
問四
外が
ということ。

問五

問六
問七

問八
という思い。

四

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七
